

2016 年度グループホームいずみ事業報告

グループホームいずみホーム長 山崎圭子

【事業総括】

- ① 年度途中での管理者の交代があったが、引継ぎがなかったため様々な業務の移行がスムーズにいかず会議や研修の運営・主治医との連携に支障をきたすことがあった。
- ② 各書式の見直しを行い、モニタリング・アセスメント・計画の更新が定期的に行われる体制を整えることが出来た。
- ③ ホーム内・各居室の環境整備を行いご入居者の過ごしやすい環境づくりをするとともに、事務的な効率を図ることが出来るよう努めた。
- ④ 地域との連携については、日々の外出や買い物などは継続しているものの、地域住民と連携した企画などを実施することはできなかった。グループホームとして認知症を知ってもらい、地域と連携していくための取り組みを実施していくことが、今後の課題となっている。
- ⑤ 2名のご入居者の看取りがあり、ご入居者の入れ替わりがあった。面接・判定会議・受入れなどに時間を要することもあったが、順次入居を進める意ことが出来、満床の状態を継続することが出来ている。また、待機者・新規問い合わせも継続してある状態にある。

【事業計画（方針）とその評価】

- ① ケアプラン作成時、十分なアセスメントのもとご本人のニーズ、ご家族ニーズを把握し、関連事業所・スタッフ間の情報のもとにサービス担当者会議を適時に開催し、ホームでの毎日の生活がご本人にとって楽しいと思えるように話し合います。

⇒ケアプランの更新が定期的になされていない状態にありましたが、管理者交代に当たりケアプラン・アセスメントの作成・更新、サービス担当者会議の開催、書類の整理など、適切にサービスを提供するために必要な体制を整え、実行することが出来るようになっていきます。

⇒サービス担当者会議を開催することで、家族のニーズを知ることが出来るようになりました。また、サービス担当者会議で入居者の状態を伝えることで、家族の持つ入居者像と現在の入居者のギャップを埋めることが出来るようになっていきます。

⇒アセスメントは計画作成責任者のみならず、居室担当者をはじめ複数の職員で関わり、各ユニット会議で計画の評価をしていくことで、職員もケアプランを意識したサービス提供が徐々に出来るようになっていきます。

⇒今後、更にケアプランと日々のケア、ケアプランとご本人・ご家族のニーズの全てが繋がっていることを意識しサービス提供をすることで、ご本人の生活がより充実したものとなることを理解し、職員が対応できるよう職員の意識を向上していくことが必要です。

- ② サービスの提供にあたっては計画について十分な説明を行い、利用者の理解と同意を得ます。

⇒ケアプランの定期更新を行う中で、ご入居者・ご家族に説明を行い、ご理解と同意を得てきました。それにより、特にご家族にはサービスの内容がより理解しやすいものになったのではないかと思います。

③ 適切なケアプランの元、的確な支援を行うことで QOL を保ち「その人らしさ」や「質の高い生活」「人間の尊厳」を守ります。現在法人として取り組んでいる「10の基本ケア」に基づき、必要なケアの基本を研鑽し、サービスの質の確保、向上を目指します。

⇒職員は法人主催の「10の基本ケア」の研修に積極的に参加しています。それにより、ケアの基本を再確認し、日々のケアを振り返ることが出来るようになっていきます。

⇒ただ、「10の基本ケア」の「床に足をついて座る」についての理解と実践が繋がっていないため、ご入居者は体に合わない椅子に座っているがゆえに座位が崩れているようなこともあるため、学んだことを生かす工夫をより率先して行っていくことが必要です。

④ 職員が当ホームの理念に向けて専門性を持って働ける体制をつくる。

⇒全体会議・ユニット会議は定期開催をしました。また、ご入居者の変化をより明確に職員が理解することが出来るよう、モニタリングの書式を変更しました。全体会議内で研修を行い、日々のケア力の向上・法令遵守の重要性について学びました。

⇒朝の申し送りや日中の職員同士の連絡等では、必要な情報は漏らさず且つ、端的に伝えることが出来るよう、各職員が情報の精査が出来るようにしていくことが必要です。また、日々の記録では、必要な情報を漏らさないと共に、ご入居者の変化や日々の様子が読み取れるような記録の仕方を

【事業実績】

① 利用実績

- ・ 稼働率：98.61%（計画：95%）
- ・ 平均介護度：3.80（計画：3.5）

<法令順守等>

① 法令を遵守するとともに、個人情報の保護に留意し、日々のケアを行っていました。

② 利用者の権利とプライバシーを尊重し、個人情報の保護に努めます。

⇒日々のケアを職員相互で点検し、ご入居者の権利とプライバシーを尊重した生活を維持できるようにしました。また、個人情報の保護のため、ケースの管理・日々の情報交換についても十分配慮をして対応してきました。

③ 利用者の人権擁護・自己実現の視点から身体拘束廃止、虐待防止、事故予防を重視します。

⇒身体拘束廃止・虐待予防については、研修を実施し職員の意識を高めるための取り組みをおこないました。

⇒ヒヤリハットや事故報告書をもとに振り返りを行い、事故を繰り返さないための改善策を検討しケアに反映してきました。しかし、同様の事故が繰り返されてきたこともあり、改善策の徹底とご入居者の変化に合わせケアを柔軟に提供できるよう、職員のケア力の向上が必要です。

<会 議>

① 毎月定例で、事業所全体会議と各ユニット会議を開催しました。

- ・ 事業所全体会議では、法人全体の事業の進捗状況や事業所の行事、家族会開催の企画立案及び役割分担を行いました。
- ・ ユニット会議では各入居者の方々のケアの方法について、各職員からの状況を報告しながら最適

なケア等について話し合いました。

<研修>

- ④ 今年度は、認知症介護実践者研修に3名の職員が参加し、認知症ケアについて学ぶことが出来ました。今後は、研修を受けた職員が中心となり、当ホームの認知症ケア力の向上を図ることが出来るよう研修や日々のOJTを積極的に実施していく必要があります。
- ⑤ 法人の10の基本ケア座学編、実践編には推進委員が中心になり全員が参加しました。

<家族会>

- ① 家族会は年4回開催し、家族会と共にご入居者・ご家族・ボランティア・職員の交流をはかることのできる企画を同時開催しました。それにより、ご家族にも日々のご入居者の状態を知ってもらうことが出来る、良い機会となりました。
- ⇒家族会では、その間にあった企画や日々のご入居者の様子を写真を交え紹介すると共に、現状の問題点なども報告することで、ご家族に現状を知ってもらう良い機会となりました。それにより、ご家族と事業者と相互の意見交換が出来、ご家族のとっても納得性の高いサービスの提供が出来るようになりました。

<運営推進会議>

- ① 地域運営推進会議は、年6回開催しました。日々の活動を報告すると共に家族会同様、現状の問題点なども報告することで現状を知ってもらうと共に、改善に向けた貴重なご意見をいただくことが出来ました。また、委員の方からは、地域の様々な情報をもらうことができました。今後は、その地域の情報を日々の活動にどのように取り入れていくか検討し、より地域に開かれたホームとなるよう情報発信をしていく必要があります。

<その他>

- ① 法人内の内部監査及び福祉サービス第三者評価、介護サービス情報公開制度により客観的な評価を受け、改善内容について積極的に取り組み、サービスの質の向上に努めます。
- ② 今年度は第三者評価を実施対象年度に当たっていないため、実施はしていません。
- ③ 法人内内部監査は実施できませんでした。
- ④ 介護サービス情報公開制度への情報提供を行いました。